

東紀州地域における 複式版外国語活動年間指導計画の提案と実践

大野 恵理*・須曾野仁志***・萩野 真紀*・榎本 和能*

Designing and implementing the combined-class curriculum for English in Higashikishu

Eri ONO, Hitoshi SUSONO, Maki HAGINO and Kazuyoshi ENOMOTO

要 旨

本研究は、三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎の教員による、東紀州地域の小学校外国語教育における教育支援についての実践報告である。2017年9月より東紀州教育学舎の教員による小学校外国語および外国語活動における教育支援が本格的に始まった。教育支援は、地域の複数の教育関係者との意見交換を得て、校長会での講義、教員研修、出前授業という地域のニーズと要望に寄り添った形で行われた。

東紀州地域の過半数の小学校に複式学級があるが、2017年度までは多くの小学校で「A・B年度案」で指導しており、地域の複数の教育関係者から「「わたり」でもなく「A・B年度案」でもなく、児童がみんな楽しんでながら、外国語の定着も図ることのできることのできる指導計画を提案してほしい」という要望が寄せられ、筆者らは東紀州教育学舎案「複式版年間指導計画」と、それに合わせて「ICTを活用した指導案」を作成した。2018年9月の段階で、43時間の指導案が東紀州地域の教員限定でインターネット上で公開されている。

その年間指導計画や指導案は、2017年度に校長会、教員研修で地域の小学校教員243名に紹介され、その指導案を使って705名の児童に出前授業を行った。研修に参加した教員のアンケート結果を分析した結果、約7割の教員が外国語を指導することに「かなり不安」または「不安」に感じており、また「発音や文法に自信がない」、「教材研究をする時間がない」、「ALTと打ち合わせをする自信がない」等の回答も寄せられた。

2017年度に東紀州教育学舎案「複式版年間指導計画」や「ICTを活用した指導案」を公開してから半年後の2018年9月に再度アンケート調査を行った。回答を分析した結果、東紀州地域で約5割の小学5～6年生の担任が「ICTを活用した指導案」を一部もしくは全部活用しており、複式学級の約7割が東紀州教育学舎案「複式版年間指導計画」に沿って授業を行っていることが明らかになった。

キーワード：小学校、外国語活動、複式学級、年間指導計画、ICT

はじめに

複式学級とは、「他の学年の児童と合わせて16人までの時は、これをもって1学級を編成する」ことであり(文部科学省、2000)、三重県南部の5市町(紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町)にある39の小学校のうち20校に複式学級がある(2017年度)。過疎化が進むこの地域には高等教育機関がなく、三重県南部地域の教育を支援する目的で、「国立大学法人機能強化促

進費」の助成を受けて2016年に三重大学東紀州サテライトが設置され、2017年9月より東紀州教育学舎の教員である筆者らによる教育支援活動が始まった。

平成29年度の教育支援活動

三重大学東紀州教育学舎の教員による東紀州地域の5市町における2017年9月～2018年3月までの主な教育支援活動は以下の3通りである。

*三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎

**三重大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻

表1 2017年度教育支援活動

	教育支援活動	回数	参加人数
1	校長会での講義	2	28
2	外国語活動の出前授業	43	705
3	外国語活動の教員研修	14	215

1. 校長会での講義

教育委員会等の要請を受け、筆者らは2017年度に東紀州地域の校長会で2回講義をした。校長会に先立ち、東紀州地域の複数の教育関係者と意見交換をし、また複数の小学校で授業参観をする機会があった。その中で、筆者らは東紀州地域の小学校の外国語教育において課題点が2つあると考えた。1つ目は、2018年4月から小学校5・6年生の外国語活動が外国語となり年間授業数が35から50に増え、ALT (Assistant Language Teacher) と呼ばれる外国人指導助手がすべての学校を回ることができず、担任が一人で外国語の授業を教えることになることであった。ALTは指導助手のため、本来はALTがいたとしても担任主導で外国語の授業をするのが原則であるが、東紀州地域の小学校では、この原則は必ずしも守られている訳ではなかった。よって東紀州教育学舎では、担任一人で外国語活動の授業ができるような教育支援をすることを目標の1つに定めた。

2つ目の課題点は、複式学級における外国語である。

「2020年度から教科化される外国語の移行期間が2018年度から始まるが、教科となる外国語をどうやって複式学級で教えたらいいいのか分からない。」という質問があげられた。複式学級の指導は主に「わたり」と「A・B年度案」の2種類が知られている。筆者らが関わった東紀州地域の複式学級の多くは、2017年度の外国語活動は「A・B年度案」を採用していた。例えば2015年度は5・6年生でHi, Friends! (1) を、2016年度は、Hi, Friends! (2) を、2017年度はHi, Friends! (1) を補助教材として使用することになる。外国語活動における「A・B年度案」の長所の1つは、外国語活動の指導経験が少ない教員が2学年分の教材研究をしなくてよいため教員の負担が少ないことである。しかし、6年生の内容(例:助動詞 can を使った疑問文)を、5年生の内容(例: My name is ...) の前に学習する児童が出るため、児童への負担が非常に大きく、小学校の段階で「英語は分からない」「英語は嫌い」になってしまう可能性がある。また、複式学級の5年生でB年度(6年生の内容)を学んだ児童が、6年生で他校の単式学級へ転校した場合、5年生の内容を全く学習する機会がない、とい

う事例も報告された。筆者らが意見交換したこの地域の多くの教育関係者の要望は「「わたり」でも「A・B年度案」でもなく、児童がみんなで楽しみながら、外国語の定着も図ることのできる指導計画を提案して欲しい。」ということであった。

2017年度に行った2回の校長会では、この2つの課題に対しての東紀州教育学舎の教育支援の可能性を提示することに焦点を絞った。1つ目の課題「担任一人でできる授業」に関しては、既存のデジタル教材やデジタル機器を最大限利用した「ICTを活用した指導案」を提示した。デジタル教材(例:補助教材 Hi, friends! の音声CD、NHK for School の「エイゴビート」等の動画)を利用することにより、ALTに発音の見本を頼ることなく担任一人で授業を進める事ができる。また、「エイゴビート」の動画は、音声だけでなく映像でも学習することが可能であり、これは「人は言語のみより、言葉と絵の両面からより深く学ぶ」というマルチメディアラーニングの学習理論(Mayer, 2009)にかなって、外国語の学習により効果的な学習環境を児童に提供することが可能である。また、2つ目の課題である「複式学級における外国語指導」については、筆者らが「複式版年間指導計画」(後述)を作成する計画であることを明示した。

2. 外国語および外国語活動の出前授業

2017年9月より東紀州教育学舎の教員である筆者らによる外国語教育の教育支援活動が始まったが、2つ目の支援活動は「出前授業」である。出前授業を担当したのは、筆者らのうち外国語(英語)の中学校教諭一種免許状をもち、中学校での指導経験のある2名(大野・萩野)である。2017年9月～2018年3月の間、東紀州地域の小学校11校で43回の出前授業を行い、705人の児童を、「ICTを活用した指導案」を用いて指導した。すべての出前授業で、Hi, friends!の音声CDとNHK for Schoolの「エイゴビート」の動画を活用し、授業の終わりに学習の「ふりかえり」の活動として「今日の授業で一番〇〇かったのは△△だった。なぜなら□□です。」という感想文を書かせた。多くの児童が「ラップのリズムにのって英語を練習するのが楽しかった。」と書いていた。ラップの歌とは、NHK for Schoolの「エイゴビート」の動画である。動画を再生するためにテレビ画面をモニターとして使ったが、「テレビを見ながら学習するのが楽しかった。」「動画を使っていて、すごく未来を感じた。」という感想もあった。デジタルネイティブの児童にとっても、動画を見ながらラップの歌で外国語を学習することは非常に印象深かった様子であっ

た。ただ、授業を参観した担任からは ICT 機器の整備や使い方等に不安を感じるという意見があった。

3. 外国語および外国語活動の教員研修

東紀州教育学会の教員である筆者らによる 3 つ目の外国語および外国語活動の教育支援活動は「教員研修」である。教員研修に先立ち「複式版年間指導計画」を作成した。前述の通り、東紀州地域の過半数の小学校に複式学級がある。担任に負担の大きい「わたり」や、児童に負担の大きい「A・B 年度案」ではなく、児童がみんなで楽しみながら、外国語の定着も図ることのできる指導計画を提案して欲しい、というのが東紀州地域の教育関係者の東紀州教育学会に対する要望であった。文部科学省（文科省）は、この課題に対する解決策の提案をしておらず、複式学級の多い高知県や島根県は県教育委員会が「複式版年間指導計画」をインターネット上で公開している。両県の複式版年間指導計画の特徴は、配当時数を圧縮して 5～6 年生の 2 年間で学習する内容を 1 年で学習するという点である。例えば、Hi, friends! (1) の Lesson 4 “I like apples.” の単元であれば、単式学級の年間指導時数が 50 の場合、文科省案（単式）では配当時数は 5 である。この配当時数 5 が、複式学級版の場合、高知県案では 1 に、島根県案では 3 に圧縮される。圧縮することにより、5～6 年の 2 年間で学習する内容を 1 年間で学習できる仕組みである。

表 2 Hi, friends! (1) Lesson4 の配当時数

	Hi, friends! (1) Lesson4	配当時数
1	文科省案（単式）	5
2	高知県案（複式）	1
3	島根県案（複式）	3
4	東紀州教育学会案（複式）	2

* 年間指導時数が 50 の場合

筆者らも、東紀州教育学会案「複式版年間指導計画」を作成した。前述の Hi, friends! (1) Lesson4 “I like apples.” の単元では、配当時数を 2 とし、各時限の学習のめあてとなる表現を明確に記載した。例えば、上記の単元であれば、1 限目に “I like apples.” “I don't like apples.” を学習し、2 限目に “Do you like apples?” “Yes, I do.” “No, I don't.” となる。具体的に学習のめあてとなる表現を時限ごとに記載しているのは、東紀州教育学会案「複式版年間指導計画」の独自の提案である。

東紀州教育学会案「複式版年間指導計画」では、担任にも児童にも負担のないようにするために、複式版年

間指導計画と合わせて「ICT を活用した指導案」を使って授業をするよう提案した。ICT を活用して指導することにより、2 つの利点がある。1 つ目は、児童にとって「学習の時短」である。小学校外国語および外国語活動では、文法を教えたり、新出表現について説明することは望ましくないとされている。よって担任は、文科省配布の DVD を再生して、児童に新出表現を気付かせることが一般的な指導方法である。しかし DVD の限られた数の映像や音声だけでは児童が新出表現の意味を正しく気付くには非常に時間がかかり、複式版年間指導計画ではこの時間を確保するのが難しい。そこで筆者らは NHK for School の「エイゴビート」等の動画を使うことを提案した。動画を見せる事により、児童は短い時間で新出表現を気付くことができ、「学習の時短」ができるのである。複式版指導案では 2 年分を圧縮して 1 年間で学習するため、学習の時短は必須である。

例えば、第 4 単元の “I like apples.” では、NHK for School の「エイゴビート」の第三回の動画を利用することを提案した。エイゴビートは 10 分番組であるが、10 分のうちの最初の 3 分 30 秒の動画を児童に見せて “I like bacon.” の表現を児童に気付かせた後、「教材コーナー」の 1 分程度の動画でラップ音源にのって表現を繰り返し発音練習させる。この動画を利用して授業を行った教員からは、「エイゴビートの動画はよくできており、児童の食いつきがいい」、「今までは、担任や ALT が寸劇をしたり独自教材を作って教えていたけれども、動画を活用することより教員の負担が軽減されて助かる」「寸劇より動画の方が短い時間で表現を気付かせることができる。」という報告がされた。この教員の負担軽減が 2 つ目の利点である。文科省の年間指導計画に含まれる学習表現のうち、NHK のエイゴビートにない表現（例：“Do you like apples?”）については、YouTube で無料配信されている動画を活用することを提案した。（例：“Do you like broccoli ice cream?”）

「ICT を活用した指導案」は、2018 年 10 月現在 43 時間分作成されている。指導案には、それぞれの単元に適した動画とその URL が記載され、さらに児童の活動等は日本語と英語の 2 か国語で併記（左が日本語で、右が英語）してある。これらの指導案は東紀州地域の教員限定で、インターネット上で公開されている。

外国語を担当する教員の不安

筆者らは 2017 年 9 月～2018 年 3 月の間に東紀州地域で 14 回の教員研修（学校単位および市町教育委員会

単位)を行い、215名の教員が研修を受講した。前述にある、担任一人でできる授業と、児童がみんなで楽しみながら外国語の定着も図ることのできることのできる指導計画という2点の課題を、教員研修でも焦点にあてることとした。教員研修では、複式学級のある学校の教員には東紀州教育学舎案「複式版年間指導計画」を配布し、単式学級の学校の教員には文科省案「年間指導計画」に各時限に学習する表現を記載したものを配布し、「ICTを活用した指導案」に基づいて模擬授業を行った。14回の研修の参加者215名のうち、145名に模擬授業終了後にアンケートの記入を依頼し、143名の協力を得られた。図1は外国語の教科化への不安度を示している。アンケートに回答した143名の教員のうち、約70%の教員が外国語の教科化を「非常に不安」または「不安」に感じている一方で、約30%の教員は「少し不安だがどうにかなる」と感じていることが明らかになった。

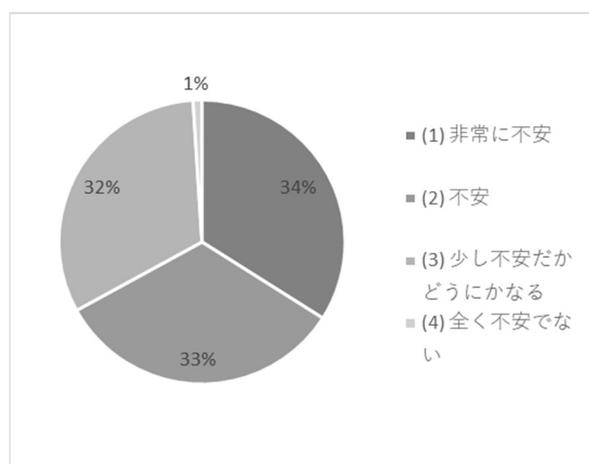


図1 外国語の教科化への不安度

1. 第一の不安「外国語に自信がない」

また、上記で「非常に不安」「不安」または「少し不安だがどうにかなる」と感じている教員に、外国語を指導する上で不安に感じていることを記述式で回答してもらった。図2は、その回答を内容分析し、外国語を指導する上で不安なことの上位6位のカテゴリーを示している。上位一位のカテゴリーは「外国語に自信がない」ことで、141人中44人が外国語に自信がないと感じており、指導できるレベルではないと回答するケースも多数見られた。ある教員からは、「50歳以上の三重県の小学校教員は、英語が教員採用試験科目でなかったため、高校卒業以来約30年まともに英語を勉強していないため、多くの50代の教員が困っている。」と相談があった。外国語の発音や文法に自信がないのは

東紀州地域の小学校教員に限ったことではないのであるが、教員が少しでも外国語に自信を持って指導できるように研修等を開催して支援していくことが必要であることが明らかになった。

2. 第二カテゴリー「イメージできない」

次に多かったカテゴリーは、「外国語の指導法が分からない・イメージできない」ことであった。現在、小学校で勤務する教員の多くは、中学校で初めて外国語として英語を学習したと推測される。小学校で指導を受けたことはないため、自分が受けたことがない授業の指導をイメージすること難しく、「外国語の指導法が分からない、イメージできない」と4人に1人の教員が回答したことにつながっていると推測される。この点に関しても、東紀州教育学舎が担当する研修には模擬授業を入れ、外国語指導法や理論と関連させながら研修を進めていく必要があることが明らかになった。

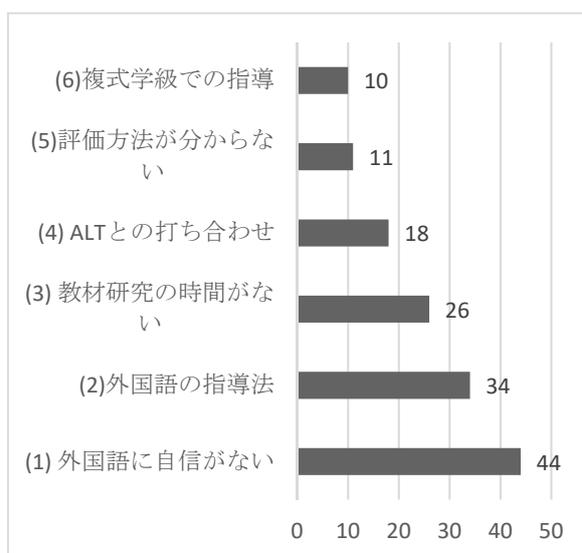


図2 外国語を指導する上で不安なこと

3. 第四カテゴリー「ALTとの打ち合わせ」

3つ目のカテゴリーは「ALTとの打ち合わせの時間がない、英語に自信がなく打ち合わせができない」というものであった。この点に関しては、東紀州教育学舎がオンラインで公開している指導案を利用すれば解決することであると考えられる。東紀州教育学舎の指導案は日本語と英語が並列で書かれており、打ち合わせがスムーズに行えるようになっている。このアンケートを行ったのは2017年度（主に2018年1月～3月のあいだ）で、それ以降、東紀州教育学舎では2018年4月から指導案を順次公開し、2018年9月の段階で合計43の指導案が公開されている。2018年9月に東紀州地域

小学 5～6 年生の担任を対象に行ったアンケート調査の結果によると、47%の小学校で東紀州教育学舎の指導案が利用されており（図 3）、「ALT との打ち合わせの時、英語で併記されているので打ち合わせがしやすい。」と複数の教員が回答している。東紀州教育学舎では、文科省の小学 5～6 年外国語活動年間指導計画に含まれる全ての単元の指導案を 2018 年度中に完成させる予定である。また、2018 年 9 月のアンケート調査の結果によると東紀州教育学舎の指導案を使ったことがない教員が半数いることも事実で、指導案の存在すら知らない教員が 58 人中 11 人いることが明らかになった。今後、研修等で指導案を使った模擬授業を実施し、東紀州教育学舎の英語併記の指導案を利用することで「ALT との打ち合わせがしやすくなる」ということを実感してもらえるように教育支援していく予定である。

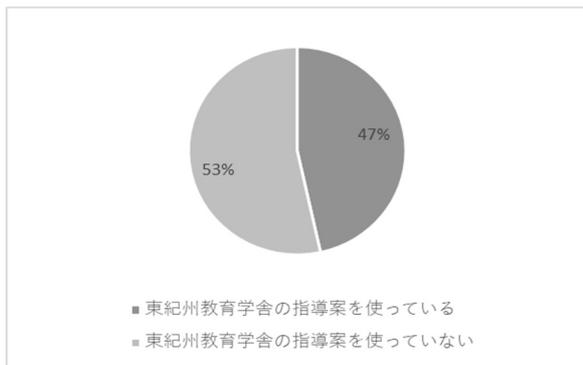


図 3 東紀州教育学舎の指導案の使用

4. 第三・第五カテゴリー「教材研究」「評価」

第三カテゴリーは「教材研究の時間がない」ことであった。これも前述の東紀州教育学舎がインターネットで公開している指導案を参考にしたり、利用したりすれば教材研究の時短になると考える。今後、指導案を使っている教員にインタビュー調査し、指導案があることで教材研究の時短になっているのか調査する計画である。

また、第五カテゴリーの「評価」については、東紀州教育学舎で行った 2017 年度のアンケート調査では約 8%の教員が「評価基準が分からない」「評価をどうすればいいのか」「どこまでできることが求められるのか分からない」と回答している。2020 年の本格実施に向けての移行期間である現在は、「現行の学習指導要領において数値による評価にはなじまないとされていること等を踏まえ、顕著な事項がある場合に、その特徴を記入する等、文章の記述による評価を行うことが適切である。」（文部科学省, 2017）とある。そして、評価方法は、活動観察やパフォーマンス評価など、多様な評価方法から児童の学習状況を的確に評価出来る方法を選択して

評価することとある。東紀州教育学舎の指導案は、各単元の終わりに発表の活動があり、すべての児童が班やクラスで発表するようになっている。例えば、前述の Hi, friends! (1) Lesson 4 “I like apples.” の単元では、授業の終わりに “Hi, I’m Doraemon. I like dorayaki. I don’t like mice. Thank you.” のような単元で学習した表現を用いて自己紹介をする活動になっている。この活動がある理由は、必要に応じてパフォーマンス評価として活用できるようにするためである。今後、ルーブリック等を作成し、担任が記述および数値による評価をする際に参考になるような評価基準を作成していく計画である。

5. 第六カテゴリー「複式学級の指導」

複式学級に関しては、東紀州教育学舎案「複式版年間指導計画」を作成し、2017 年度の研修等で東紀州地域の半数以上の小学校の教員に複式版年間指導計画の使い方や、その意図を説明することができた。そして 2018 年 9 月に行ったアンケート調査では、回答があった複式学級の 7 割が、東紀州教育学舎版「複式版年間指導計画」を利用していることが明らかとなった（図 4）。今後、東紀州教育学舎では「複式版年間指導計画」に沿って外国語および外国語活動を学習した複式学級の児童が、文科省案の「年間指導計画」に沿って学習した単式学級の児童に劣らず、「外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力」が養えているか、多角的に調査する計画をしている。仮に「複式版年間指導計画」に沿って外国語活動を学習した児童が、文科省案の「年間指導計画」で学習した児童より著しく劣っているならば、「複式版年間指導計画」の見直しが必要である。

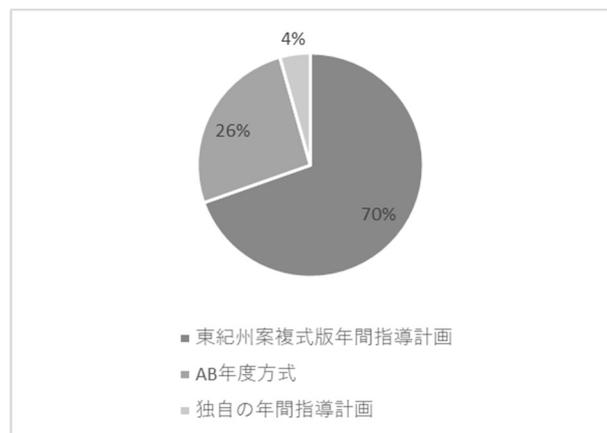


図 4 複式学級の年間指導計画の種類

まとめ

三重大学東紀州サテライト東紀州教育学舎の教員である筆者らは、2017年9月から東紀州地域における外国語活動について教育支援を行ってきた。主な教育支援は、校長会での講義、教員研修、出前授業である。教育支援を開始する前に、筆者らは東紀州地域の教育関係者と意見交換をし、地域のニーズや要望に応える形で東紀州学舎案「複式版年間指導計画」を作成し、それに合わせて指導案を作成し公開した。そして、この年間指導計画や指導案は2017年度の教員研修で243名の教員に、その指導案に沿った外国語活動の授業を705名の児童が体験した。教員研修に参加した243人の教員のうちアンケート調査に回答した143名の記述式回答を内容分析した結果、約7割の教員が外国語を指導することを「とても不安」「不安」に感じており、また約3割の教員が「外国語を指導できるレベルではない。」と感じていることが明らかになった。筆者らは東紀州教育学舎が提案している「ICTを活用した指導案」を用いて授業をすることにより、教員の不安は軽減されると考えている。2017年9月に本格的に教育支援活動を開始して約1年が経過した。2018年9月のアンケート調査では、東紀州教育学舎版複式版年間指導計画は7割の小学校で、指導案については約半数の学校で使われていることが明らかになった。今後も、地域のニーズや要望に応える形で教委支援活動を続けていく予定である。

付記

アンケート調査に回答してくださった東紀州地域の小学校教員、およびアンケートの配布・回収をくださった各市町教育委員会の皆様に深謝します。

引用文献

- EIOS しまねの教育情報 Web (n.d.). 外国語活動年間指導計画【複式学級】
<http://eio-shimane.jp/document/doc-academic-training/gaikokugozikannwarireitou/317> (参照日 2018.10.29)
- Mayer, R. E. (2009). *Multimedia Learning* (2nd ed.). New York, NY: Cambridge University Press.
- 高知県 (2018). 【第5・6学年】移行期間中の複式学級 年間指導計画例《H30》
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/gaikokugokatudou.html> (参照日 2018.10.29)
- 文部科学省 (2000). 今後の学級編成及び教員定数改善に関する意見

- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/069/shiryo/attach/1291696.htm (参照日 2018.07.07)
- 文部科学省 (2017). 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm (参照日 2018.10.30)
- 文部科学省 (2018). 第5学年年間指導計画例 (3月最終版)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkouku/1382162.htm (参照日 2018.10.29)